

# 令和5年度 淡路島総合観光戦略アクションプランに 基づく取組の評価

# 令和5年度 淡路島総合観光戦略アクションプランに 基づく取組の評価

- (1) 取組状況の進捗度・JSTS-D達成度の自己評価
  - (2) 各実施主体の主な取組
  - (3) 重要業績評価指標(KPI)の達成度
- 以上の3項目を令和5年度における取組の評価とする。

令和5年度 淡路島総合観光戦略（2023～2027年度）アクションプラン  
～取組にかかる検証～

- 令和5年度の取組にかかる進捗について、全161事業のうち「計画以上」が89事業、「おおむね計画どおり」が55事業で全体の約89%の進捗度となったほか、JSTS-D（日本版持続可能な観光ガイドライン）については「おおむね実施」が24事業、「一部実施」が136事業と約99%の達成度となり、淡路島総合観光戦略の方向性として概ね順調な進捗と評価できる。
- 特に令和5年度は、推進戦略1（商品戦略①：物語化）で目指す、淡路島ならではの特色を活かした「着地型体験コンテンツ」の発掘に取り組み、30カ所のプラン造成に繋げた。これを持続可能なコンテンツとするため、さらに磨きをかけ発信力を高めることが必要である。
- 今後は、大阪・関西万博を控えインバウンドのさらなる伸長が見込まれる中、これらの体験プランを活用した海外の誘客促進に一層取り組むことが求められる。

【アクションプラン評価結果】

区分	事業数	取組の進捗度			JSTS-D達成度		
		a	b	c	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
基本戦略（サステナブル戦略）	43	22	15	6	13	30	0
推進戦略1（商品戦略①：物語化）	34	18	13	3	1	33	0
推進戦略2（商品戦略②：高付加価値化）	30	18	8	4	3	27	0
推進戦略3（アメニティ戦略）	40	22	14	4	5	34	1
推進戦略4（情報戦略）	9	7	2	0	1	8	0
推進体制と検証体制の確立	5	2	3	0	1	4	0
合計	161	89	55	17	24	136	1

【取組状況の進捗】

- a: 計画以上に進捗
- b: おおむね計画どおり進捗
- c: あまり進捗していない

【JSTS-D達成度】

- Ⅲ: おおむねJSTS-Dに沿って実施
- Ⅱ: 一部JSTS-Dに沿って実施
- Ⅰ: あまりJSTS-Dに沿って実施していない

# 令和5年度 淡路島総合観光戦略（2023～2027年度）アクションプラン ～取組にかかる検証～

## 1. アクションプランに基づく取組の自己評価

### ○基本戦略（サステイナブル戦略）「島内外から支持される観光地」をめざし、環境保全に配慮した持続可能な観光地づくり

戦略の方向性	事業数 (評価 項目)	取組の進捗度			JSTS-D達成度			備 考
		a	b	c	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆持続可能な取組に配慮した観光地づくりへの意識啓発</li> <li>◆環境保全活動と観光との関連付け</li> <li>◆島内各産業や住民に経済波及効果を与える「域内調達率UP」の推進</li> <li>◆観光を支える人財(外国人労働者、セカトキャリア等)の確保と満足度(ES)の向上</li> <li>◆年間の観光需要の平準化、平日の観光需要の喚起</li> </ul>	43	22	15	6	13	30	0	淡路島ならではの特色を活かしたコンテンツを30カ所造成し観光協会HPに登載した。今後は、各プレーヤーの発信力の向上を図るなど、観光客を魅了するさらなる磨き上げに取り組む。  <b>【主な課題】</b> ○地元食材の域内調達率調査については未実施 ○あわじ環境未来島構想との連携については、環境保全活動と観光客を結びつけるコンテンツの開発が未進捗

### ○推進戦略1（商品戦略①：物語化）「選ばれる観光地」をめざし、自然や歴史に培われた文化、産業、食の魅力・ポテンシャルを引き出す観光コンテンツの開発

戦略の方向性	事業数 (評価 項目)	取組の進捗度			JSTS-D達成度			備 考
		a	b	c	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆淡路島の強みである「美食」「やすらぎ」「海」「歴史」など本物を活かしたコンテンツづくり</li> <li>◆兵庫テロワール旅にふさわしい地域の風土を活かしたコンテンツづくり</li> <li>◆地域資源をより深く楽しめるストーリーの磨き上げやストーリーテリング能力の開発による体験価値の向上</li> <li>◆上記の観光コンテンツを基軸とした新たな観光商品づくり</li> </ul>	34	18	13	3	1	33	0	体験型コンテンツでは、地場産業、漁港セリ見学、農産物収穫体験など、淡路島ならではの魅力にこだわった本物体験プログラムを造成。今後は、うずしおクルーズの「RIBボート」を活用したプログラムの造成を検討。  <b>【主な課題】</b> ○畜産をテーマとした農水産業のコンテンツ発掘 ○観光目線での港の再整備につき港湾管理者との協議

### ○推進戦略2（商品戦略②：高付加価値化）「京阪神以外からも選ばれる観光地」をめざし、首都圏等遠隔地発のシェア拡大に向けた誘客の促進

戦略の方向性	事業数 (評価 項目)	取組の進捗度			JSTS-D達成度			備 考
		a	b	c	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆遠隔地の旅行者(インバウンド含む)に選んでもらうための高付加価値化</li> <li>◆遠隔地発の旅行者のシェア拡大による観光の消費単価の押し上げ</li> <li>◆大阪ベイエリア、瀬戸内海エリア、兵庫県での大型イベント等に連携し、その影響を見据えた観光ルート等の展開</li> </ul>	30	18	8	4	3	27	0	淡路島が有するポテンシャルを活かした「体験型コンテンツ」は京阪神のみならず幅広い地域の人々を惹きつける効果が期待できる。AWAJI島博については、公募によりロゴマークを制作しPRするなど、一層の機運醸成を図った。  <b>【主な課題】</b> ○万博等を控えインバウンドへの一層の取組が必要 ○島博について、協賛募集の強化が必要

○推進戦略3（アメニティ戦略）「快適に過ごせる観光地」をめざし、円滑な移動や快適な滞在を実現する受入環境の整備

戦略の方向性	事業数 (評価 項目)	取組の進捗度			JSTS-D達成度			備 考
		a	b	c	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆公共交通によるアクセスの情報提供方法を充実・改善</li> <li>◆利便性の高い公共交通のネットワーク化等の働きかけ</li> <li>◆未来型モビリティなど新たな移動サービスの導入</li> <li>◆来島者の心地よい滞在を支援する受入環境の整備</li> <li>◆多様な旅行者に対応するユニバーサルツーリズム(アクセシブルツーリズム)の推進</li> <li>◆旅行者目線を取り入れ、観光客を気持ちよく迎える景観づくり、景観の再構築</li> </ul>	40	22	14	4	5	34	1	<p>淡路島内発着バス検索アプリ「バスモ」を運用、制度の周知と活用を呼びかけた。しかし、円滑な移動の観点では、首都圏から空港を介したアクセスや島内の回遊性など利便性の点で課題が残る。</p> <p>「ひょうごユニバーサルなお宿」宣言・登録制度について、宣言施設は島内21施設(全県103施設)、うち登録施設は島内14施設。(全県51施設)</p> <p><b>[主な課題]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○首都圏向け徳島空港+レンタカーの活用検討</li> <li>○「バスモ」の充実・認知度向上に取り組むとともに、島内交通事業者との観光客誘致に向けた課題認識の共有。</li> </ul>

○推進戦略4（情報戦略）「相互理解のできる観光地」をめざし、淡路島総合観光戦略を島内外の各種セクターと共有

戦略の方向性	事業数 (評価 項目)	取組の進捗度			JSTS-D達成度			備 考
		a	b	c	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆島内の観光関連企業との情報共有、相互理解の促進</li> <li>◆圏域内大型イベント事務局や広域連携DMO等との情報共有と連携</li> <li>◆島内の観光関連以外の事業者との情報共有、相互理解の促進</li> <li>◆上記活動と連動し、交流人口及び関係人口の増加に資する連携の企画</li> </ul>	9	7	2	0	1	8	0	<p>パソナグループ、アクアイグニス淡路島との意見交換の実施したほか、体験コンテンツの造成やニジゲンノモリ洲本温泉号の活用など連携を図った。</p>

○推進体制と検証体制の確立

戦略の方向性	事業数 (評価 項目)	取組の進捗度			JSTS-D達成度			備 考
		a	b	c	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆DMO登録法人である淡路島観光協会を中心に、県、市、関係団体等が相互に協力</li> <li>◆淡路島観光協会のDMO機能(デスティネーションマネジメント/デスティネーションマーケティング)強化</li> <li>◆淡路島観光戦略会議が、観光戦略の重要な取組の方向付けや検証を実施</li> <li>◆淡路島観光戦略会議の構成員に加え、企業・団体の取組、大型イベントの実施主体などと広域に連携</li> <li>◆日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)の考え方や基準を取り入れつつ推進</li> </ul>	5	2	3	0	1	4	0	<p>JSTS-D（日本版持続可能な観光ガイドライン）を活用して所管ごとに自己評価を実施した。</p>

## (2) 各実施主体の主な取組

### 淡路島観光協会

「ひょうごフィールドパビリオン」や「特別感のあるプログラムの開発」などによる高付加価値化への対応

令和5年度は、30件もの「淡路島ならではの」観光コンテンツが観光協会のHPからオンラインで予約可能になった。令和6年度は、60件を目標にコンテンツの洗い出し・磨き上げを行う(イトイン等)



### 淡路県民局

あわじ環境未来島体験ツアーの企画・実施

令和5年度は、島内のプロジェクト現場等を巡る日帰りバスツアーを2回実施した。令和6年度は、更なる見学・体験先の創出として島内高校との連携事業を引き続き実施し、生徒目線でのコンテンツの抽出にも取り組む。



### 洲本市

大浜公園の利用促進

令和5年度は、竹灯籠のライトアップ・巨大ブランコの設置・ボディビル大会等を開催し、大浜公園の魅力を発信した。令和6年度も更なる魅力発信のため民間活力を活かしたイベント等の誘致に取り組む。



### 南あわじ市

多言語対応できる、ガイドコーディネーターの養成

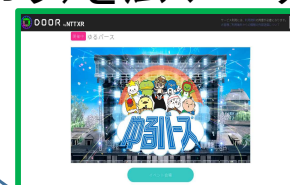
令和5年度は、二期生の認定試験やガイド研修を行い、認定ガイド数の増加や商品化に向けた準備を行った。令和6年度は、全島案内化やスキルアップに取り組む。



### 淡路市

世界的観光立島・淡路市事業「ゆるバス」誘致事業】

令和5年度は、「ゆるバス」に「あわ神」を参加させ、市の魅力発信。令和6年度は、キャラの地名度向上、歴史・文化を同時に情報発信することで、淡路市の底力(アワジカラ)を広くPRする。



### (3) 重要業績評価指数(KPI)の達成度

評価指標/【データ取得方法】	戦略策定時の参考数値※1	直近の把握数値(年度)	2027年目標
①観光GDP 【兵庫県観光客動態調査】	696億円	659億円(2022年度)	766億円
②宿泊者の発地別比率 (近畿圏以外の宿泊者比率) 【RESASデータ】	24.1%	21.9%(2022年度)	35%
③a)観光客の消費単価 b)域内調達率	既存データなし	a)宿泊 : 4.7万円(2023年度) 日帰り : 1.7万円(2023年度) b)調整中	調整中
④観光客の満足度 【ひょうご観光本部：観光魅 力度調査】	(調査7項目※2) 66.7%~100% (2022年4月~6月)	39.3%~100% (2023年4月~12月)	全ての項目で90%以上 (2027年度平均値)
⑤県民(淡路島) 一人あたりの所得 【兵庫県民経済計算】	一人あたりの所得 2,526 千円	一人あたりの所得 2,607千円(2021年度)	一人あたりの所得 2,780 千円
⑥住民(淡路島) 満足度・住民理解度 【兵庫県県民意識調査】	住民満足度70.1%(2021年度) 住民理解度既存データなし	住民満足度64.1%(2023年度) 住民理解度53.2%(2023年度)	住民満足度76% 住民理解度未設定

※1 コロナ禍の影響が強いため、④観光客の満足度、⑥住民満足度を除き、2019年度数値を参考

※2 ①名所旧跡・景観・地域の雰囲気、②観光・文化施設、③体験・アクティビティ、④食事の内容、⑤お土産・特産品の内容、  
⑥観光施設や飲食・物販施設等の接客サービス、⑦地域への再訪意向の7項目で判断

- ①観光GDPに関しては、コロナ禍において372億円(2020年度)まで落ち込んだが復調傾向  
④観光客の満足度に関しては、体験・アクティビティの項目で良い結果が得られなかったが、地  
域への再訪意向については、アンケートに回答した全員が「ぜひまた訪ねたい」、「機会があれば訪ねたい」と回答した。